地域振興助成
2022 年度採択事業　活動紹介

瀬戸内海地域振興助成

1. 地域を知り、地域に誇りをもつ「ジオクルーズ」の開発

讃岐ジオパーク構想推進準備委員会

代表者名：長谷川　修一

香川大学公開講座の受講生有志によって発足した団体で、大地の成り立ちから地域のことを学ぶことのできるジオパークに香川全域が認定されることを目指している。香川大学で認定された「讃岐ジオガイド」は、讃岐ジオパーク構想推進準備委員会の中心的メンバーとして現在、香川大学公開講座「ジオガイドが案内する讃岐ジオサイト探訪」でのガイド役、香川県発刊「てくてくさぬき」でのジオツアー等ボトムアップの活動を行っている。

WEB：https://www.facebook.com/sanukigeo

2. 古民家転生：塩江の生きたアーカイヴを体験できる宿泊施設事業

一般社団法人トピカ

代表者名：立川　淳

塩江町の町おこし団体として、地元住民、地元観光協会や県内外の団体と協力しながら塩江町内の活性化を行っている。特にコンセプトとして「幸福なダウンサイジング」を掲げ、地元住民が人口減や経済的縮小を自発的に受け入れ、それを逆手に取った柔軟で結束の強いコミュニティ作りを行っている。また、安定した経済基盤を得るための観光事業、一次生産も行っている。

WEB：https://topica.or.jp

3. 神社を拠点とした古き良き風習と共に育てる地域コミュニティーきずな構築プロジェクト

小豆島夏詣運営委員会

代表者名：大和　美祈

夏詣を通し、夏越しの大祓や形代流し等の古き良き日本の風習を復元し、延いては当地に地域統合の象徴とある秋の太鼓まつりの継承・継続を推進することを目的としている。あらたな習慣を取り入れながら不易流行とし、受け継がれるべく伝統文化を繋ぎ、地域コミュニティを活性するための活動の検討を行っている。

WEB：https://www.instagram.com/shodoshima.shrine/

4. 瀬戸内海の離島集落における「生きた景観づくり」～ 空き家の活用と男木島らしい景観継承に向けた情報分析と発信

安部良アトリエ一級建築士事務所

代表者名：安部　良

2009 年から男木島集落の景観・家屋の調査を継続して実施。空き家実測調査をはじめ、ワークショップや座談会の企画・運営などを通じ、伝統と現代的なライフスタイルが補完し合う「生きた景観づくり」に取り組み、男木島における集落存続の可能性や移住の動向等について、先行研究や全国の事例を参考にしながら考察を行なっている。

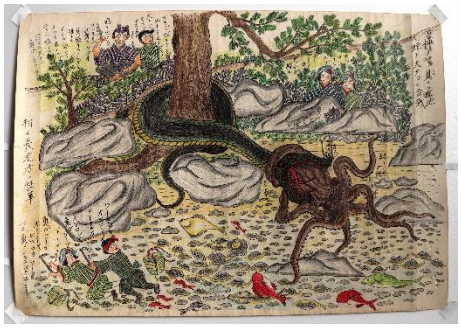
WEB：https://aberyo.com/

5. 道西喜代吉氏画集展覧会

真鍋島公民館自主講座（真鍋島歴史文化研究会）

代表者名：武井　優薫

地域住民を交えての座談会、聞き取り調査、集落散策や山道整備といったフィールドワークなど、真鍋島の歴史と文化に関するさまざまな取り組みを進めている。2022 年度は、島の古老（故人）の手による見事な歴史民俗絵図を広く内外に周知し、真鍋の記憶を未来へと継いでいきたいとの想いから、小さな展覧会を企画していく。



6. 小林和作旧居再起動計画＋
NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト
代表者名：豊田　雅子

2007 年尾道中心市街地に数多く存在する空き家を再生し、新たな活用を模索するため団体発足。以降、尾道空き家談議、尾道建築塾、再生合宿など多彩な事業を行いつつ活動を展開。2008 年には NPO 法人化し、2009 年には「尾道市空き家バンク」事業受託を開始。これまで、尾道ガウディハウス、あなごのねどこ、みはらし亭、松翠園大広間など空き家約 20 軒を再生、空き家バンクのマッチングは 130 件以上で地域再生に広く貢献している。

WEB：http://www.onomichisaisei.com/index.php

7. 瀬戸内海の景観と良好な環境を保全し創造する、空き倉庫地活用の「海の design コミュニティ」プロジェクト
UME プロジェクト
代表者名：林　秀俊

「誰でも来られる地域の居場所」づくりを空き家利活用で活動する団体を 2019 年 11 月に発足。2020 年 10 月より再生リノベーションを行う。ワークショップも開催（2020 年 3 月の 2 日間の延べ 75 名の参加）2021 年 4 月末で再生事業を完了（総額 800 万）2021 年 5 月より「居場所」を開設・運営。教育機関や他団体と連携し、地域の子どもの情報を共有しながら活動。フードバンク事業も行う。学習支援も昨年度より実績あり。

WEB：https://umeproject.jimdofree.com/

8. すなみ映画祭
一般社団法人あみだす
代表者名：橋本　康太

三原市という地域に存在する様々な課題を、「ヒト・モノ・コト」を掛け合わせながら、解決していく事業を展開している。そのうちの一つが「バリアフリービーチ in 三原」である。すなみ海浜公園のバリアフリー環境を活用し、障がいがある方にも海を気軽に楽しんでもらえるよう、取り組んでいる。「海」という選択肢が、誰にとっても当たり前になることを目指すとともに、誰もが暮らしやすい街づくりを推進していく。

WEB：http://amidas.social/

9. 上島町における「空き家の利活用による移住促進」を主な事業内容とする NPO スタートアップ

特定非営利活動法人かみじま町空き家よくし隊

代表者名：川畑　良文

上島町でも、多くの空き家が存在し、今後も増加すると予想されている。その一方で、上島町には「移住希望者に紹介できる住居が少ない」という課題がある。当法人は、利活用可能な空き家が老朽化・廃屋化することを抑止し、整備し移住希望者へ貸し出すことを通して、上島町への移住・定住を促進し、地域コミュニティを維持して町の活性化に貢献することを目指している。

WEB：https://www.facebook.com/akiyayokushitai

10. レモンチェッロ酒造でつなぐウィズコロナ時代の観光構築

株式会社瀬戸内ジャムズガーデン

代表者名：松嶋　匡史

瀬戸内の島、周防大島にあるジャム造りを中心とした 6 次産業の会社。連携農家は 58 軒におよび、フェアトレードを重視。年間 8 万人が来店する島の観光スポットとなっている。自社事業以外にも、行政と連携し島への UI ターン者を応援する取り組み「島くらす」を主催、お寺と連携した島の空き家対策、事業者連携による観光商品づくり、地域教育への参加など、多様な連携によりに持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

WEB：https://www.jams-garden.com/